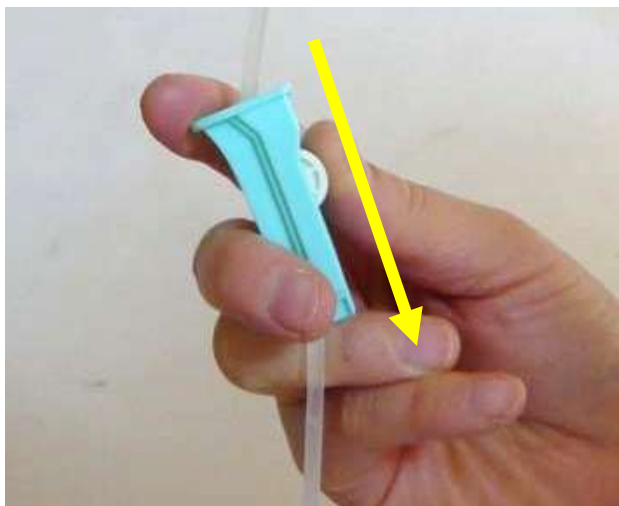


## 点滴の始め方

点滴の管、輸液剤、アルコール綿、ヘパリン生食注を用意する



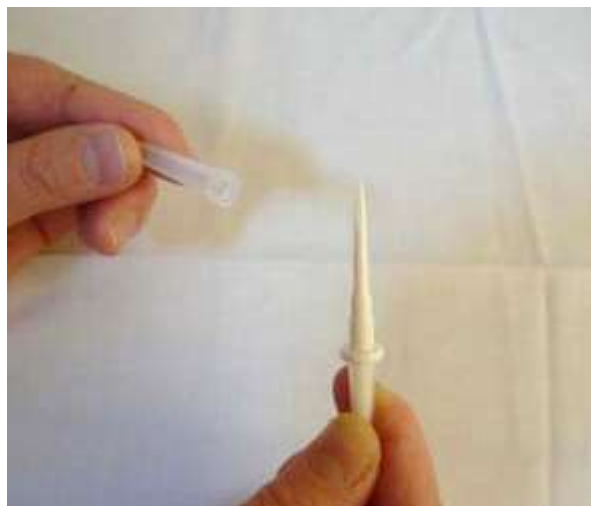
1. 点滴の管を袋から取り出し、クレンメのローラーを下まで回しておく。



2. 輸液剤を平らなところに置き、ゴム部分のフィルムをはがす。



3. 点滴の管の白い針のキャップをはずす。



4. ゴム部分の○に針をまっすぐ差し込む。



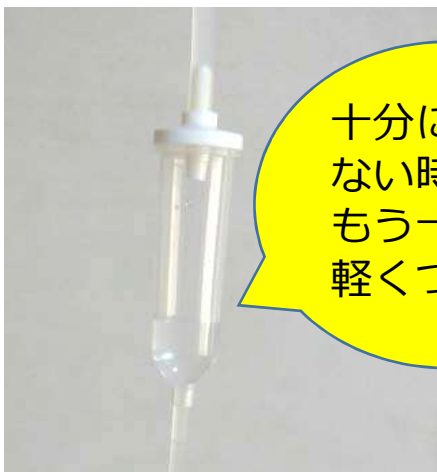
# 点滴の始め方

5. 輸液剤を点滴台やフック等高いところにかける。



(ハンガー利用も便利)

6. 滴下筒を指でつぶして、ゆっくり離し、輸液をためる。

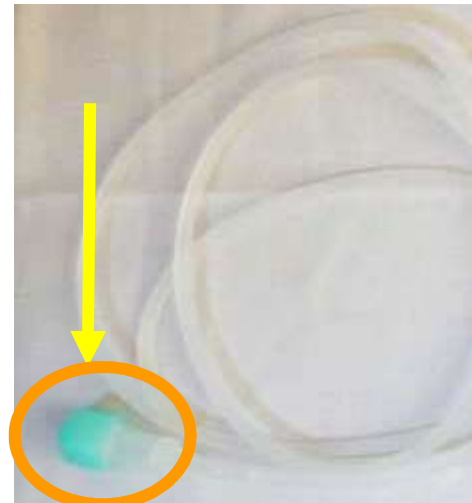


2/3～半分程度満たす。

7. クレンメのローラーをゆっくり上げる。



点滴管の先まで輸液を満たす



8. 本人の体についている体側の管を出す。



# 点滴の始め方

9. ヘパリン生食注の開封。



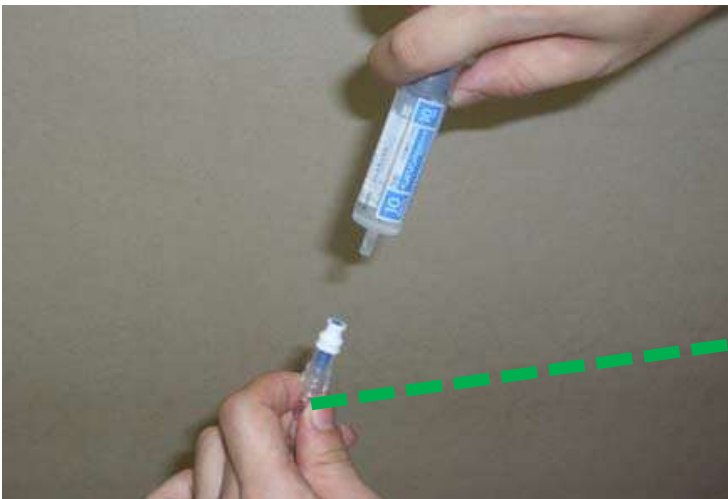
10. キャップを取り、先端が他に触れないように持つ。



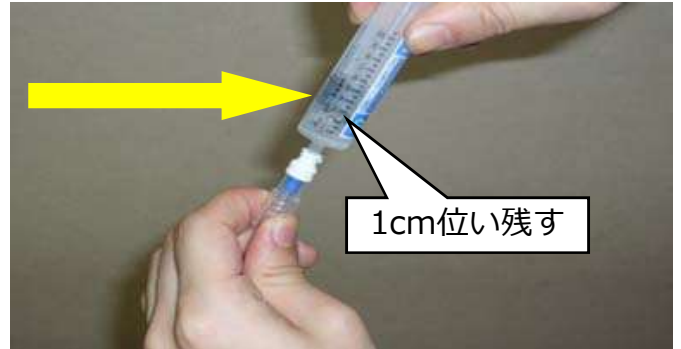
11. ヘパリン生食注を持ったままアルコール綿を開け、体側の管の先の青い部分を拭く。



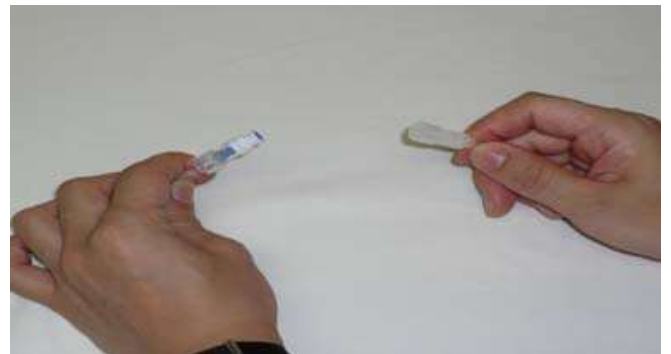
12. 青い部分にヘパリン生食注を立てて差込む。



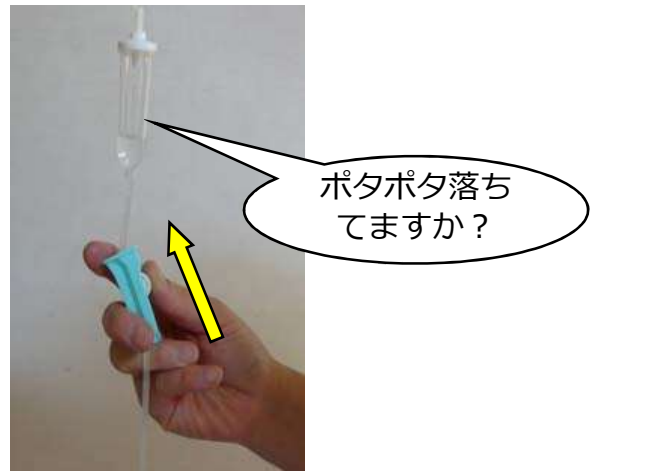
13. 8割程度入れたらはずす



14. 点滴管の緑のキャップをはずし、体側の管と接続する。



15. ローラーを上げ、滴下筒のしずくが落ちることを確認。  
( ) 秒 ( ) 滴にする。



先端に緑の栓が付いたら、下の写真のような方向に回しておく。



# <こんなときはどうするの？>

## 点滴中に針の入っている部分が痛い

点滴が漏れている可能性あり。慌てず点滴を中止する。

- ① 点滴のローラをしっかりと下げ、輸液を止める。
- ② 点滴の管を接続部から離しておく。

## 点滴が落ちない

- ① ローラーが下に下がっていないか確認。
- ② 点滴の管の折れ曲がりがないか確認。
- ③ ①、②で問題がなければ、体や腕の向きを変えてみる。
- ④ ③をしても点滴が落ちないときは、点滴を止め、接続をはずし、ヘパリン生食を注入する。注入時に痛み、腫れ、漏れがあるときにはすぐに中止する。

## 点滴管の中に空気が入った

- ① 気泡が入っても問題ない。ただしどうしても気になる場合には、点滴の管を指ではじいて気泡を上の方に移動させる。
- ② 空気がたくさん点滴管に入っている（例えば10センチ位）場合には、点滴管のローラーを下げて体側の管と切り離し、ヘパリン生食注を注入しておく。そして点滴の管のローラーを上へ上げて点滴を流し空気を追い出す。

## 点滴管の中に血液が逆流している

- ① 点滴の管が外れていないか確認。外れていたら新しい管に交換。
- ② 輸液が空になっていないか確認
- ③ 輸液の位置を高くしてみると逆流がなくなる場合がある。

## 点滴管の中に血液が逆流している

- ① 体につながっている管の青い接続部から点滴の管をはずし、ヘパリン生食注を注入する。
- ② 輸液のゴム栓部分をアルコール綿でふき、新しい点滴の管を接続し再開する。

## 体に挿入されている点滴の管が抜けてしまった！

- ① 慌てずに、抜けた部分をガーゼで押さえる。（3～5分位）
- ② 点滴を止める（ローラーを閉める）

**☆無理する必要はありません。対処できない時には訪問看護師に連絡しましょう。**